

令和5年度第1回亀岡市社会教育委員会議 会議録

1 日時 令和5年7月21日(金) 午後2時00分～午後4時00分

2 場所 亀岡市立図書館中央館

3 出席委員

工藤 和之 議長
山田 昌子 副議長
猪子 純子 委員
入江 治雄 委員
木本 裕子 委員
黒川 孝宏 委員

4 欠席委員

中嶋 知彦 委員
中澤 博幸 委員
川口 研一 委員
野々村 誠一 委員
池田 恭浩 委員
明田 晋治 委員

5 出席事務局職員

神先 教育長
森岡 教育部長
樋口 社会教育課長
宮本 社会教育課人権教育担当課長
岡田 歴史文化財課長兼文化資料館長
小川 図書館長

6 傍聴者

なし

7 議事の概要

- ① 開会
- ② あいさつ(教育長)
- ③ 連絡・報告事項
 - [1]令和5年度亀岡市社会教育推進事業について
 - [2]令和5年度亀岡市人権教育推進事業について
 - [3]亀岡市社会教育委員の令和5年度活動計画について
- ④ 協議事項

- [1]南丹地区社会教育委員連絡協議会研修会の視察先について
- [2]その他
- ⑤ 閉会(教育部長挨拶)

【議事に対する意見】

③ 連絡・報告事項

- [1]令和5年度亀岡市社会教育推進事業について

○委員

まず、新資料館(仮称)基本構想策定事業は、資料館が長年にわたり積み上げてきた亀岡市新資料館構想や亀岡市における文化施設のあり方を考える懇話会の報告書などを受けて、主管課である歴史文化財課により計画策定が行われる。これが令和5年度社会教育委員会議報告事項に取り上げていないのは何か理由があるのか。この新資料館(仮称)基本構想策定事業の検討委員会設置の経過や開催される検討委員会の議事録を必ずホームページに掲載し、市民に広く周知する情報発信を徹底し、議事内容等をしっかりと記録していただきたい。

また、文化資料館では令和3・4年度では特別展1回と企画展2回開催されていた。今年5年度では、特別展1回と企画展2回が1回だけである。これは何か理由があるのか。

○事務局

新資料館(仮称)基本構想策定事業は、ご指摘のとおり本来であればもっと詳細な説明をすべき大きな事業であると認識している。ただ、最近に補正予算が議決されスタートしたばかりの事業であり、本資料を作成する時点では提示できなかった。また追って報告をしていきたい。

企画展の開催回数は確かに今年度減少している。理由としては、予算の都合がある。また、企画展や特別展を開催するにはかなりの労力と時間を要する。限られた学芸員で新資料館(仮称)基本構想策定事業を進める必要があったため、回数の見直しを行った結果だと思ふ。

○委員

ここ3～4年の展示会分野の傾向を見ると、考古分野の展示会があまり行われてないように感じる。担当学芸員の都合や発掘業務の関係など様々な理由があると思う。今すぐの開催を求めているわけではないが、「麒麟がくる」にちなんでの明智光秀、丹波亀山藩、今年度の足利尊氏など歴史分野の展示会の連続開催もよいが、歴史・民俗・考古分野とバランスのとれた展示会開催が必要かと思う。

考古分野の展示会も結構人気があるので、発掘調査の成果を一挙公開する考古分野の展示会を是非とも企画・開催していただきたい。

図書館中央館リニューアル工事

○委員

先ほど書籍の収蔵を小学校の空き教室ですと言っておられたが、書籍の保管はボックスに入れて、積み上げるとのことか。

○事務局

書籍に耐えられる段ボールを業者に用意していただき、その箱になるべく隙間をこしらえないように箱詰めして、4段重ねで積み上げて保管する想定である。

○委員

昨年9月に開催された亀岡市立図書館中央館のリニューアルに向けたワークショップに参加した。

今度できる新しい書架室は、もともとある書架室を改修工事で壁などを張りかえて作られるのか。新しく収蔵用スペースをコンクリート壁などで作ったら、文化資料館くらいの規模でも最低、ふた夏程度の乾燥期間がないとガスや湿気が取れない可能性がある。図書館にとっての命である書籍も、新しい書架室にすぐ入れてしまったら、湿気によるカビの発生があり得るのではないか。普通の教室に仮置きをして、環境に馴染まして持ってくるのがよいと思う。書籍の保管環境が急激に変化したら書籍自体が劣化する可能性があると思う。新しい書架室を作る場合、そのような事態には非常に注意を払っていただきたい。

書架室自体はどのような感じになるのかを教えてください。

○事務局

書架は一から作るような形である。すべて来館者スペースに蔵書を並べて、来館者が自由に取り出せる環境を考えている。また、仮置き場所も学校の空き教室なので、書籍はその間の移動につき、湿気やカビの心配をする必要がないと考えている。

○委員

閉架式の書架室ではなく、蔵書を一般の市民の方が手に取って見ることができるイメージに変わるということか。

京都府の歴彩館や中央図書館に行くと、閉架式の書架室があり、図書館でも閉架式の書架室のイメージが強かった。書架と言われ、自由に見れるのではなくて書籍がびっしりと並んでいるイメージと思ったが、そうではないということに理解した。その状況だったら、温度湿度の管理は比較的しやすいと思う。

○事務局

閉架式ではなく、オープン式である。来館者スペースの書架に蔵書を置くイメージである。

○委員

社会教育委員の皆さんの前で、メタバースの映像を実際に映し動かしていただければ非常にイメージが持ちやすいと思う。3月の会議では、ホームページで公開する短いイメージ動画を見せていただいたが、実際にメタバースの中で自分の操作により人物を動かそうとすると、なかなかうまく動かせない。また、プレイ中に出てくるミッションの進め方が分かりにくく感じる。

メタバース自体の操作は、今どきの若い世代には簡単で、文化財や歴史に興味ある若い人にも楽しく見るができると思う。今後は活用マニュアルをしっかりと作っていただきたい。ぜひオリジナルで担当課学芸員の思いを込めたマニュアルの充実化をしていただけたらと思う。

また、メタバースを作る目的は、単なる遊びのツールではなくて、学芸員が頑張っ、知恵を絞って作成したものだと思うので、メタバースを通じてその文化財が有する本物・実物の価値を知ってもらい、この地域の文化財の大切さとかを伝える重要なコンテンツになることを期待している。

○委員

南丹地区社会教育委員研修会でも文化資料館の紹介をできたらと思っている。そこで、もし可能であったらメタバースの紹介も入れたい。

○事務局

メタバースを入口として子どもたちが興味を持ってもらえるように広めていけたらと思う。貴重な文化財を継承していくという意味では、データベースの充実も重要であるとの文化財保護委員会の委員から指摘があった。市民の方とか観光客の方が見られる部分についての情報量は備わっているとは思いますが、文化財を研究する学生や専門家から見れば、まだまだ情報量が不足しているとの意見をいただいている。今入っているデータベース化されたものに加え、今年度も新たにデータベース化を進めていく。量を増やすことはもちろんのこと、質も上げていけるよう考えている。

○委員

ボーイスカウトの活動の中で亀岡の資料や文化財を見ることがあり、リーダーやスカウトの中でもそれに関心をもっている者がたくさんいるが、今までの活動の中に文化資料館の見学活用について我々リーダーも教えてきていない現状がある。

学校関係者の方や先生方は知っておられるが、我々に文化資料館の見学活用に関する情報が行き渡っておらず、資料館の見学をしたいという希望もあまりない。もしそういう資料があれば、リーダーが主体となって資料館の見学をできたらと思う。

また、文化財のデジタル化ということで、低学年ではまだ難しいと思うが、高学年になるとメタバース等に非常に興味強い子どもたちがいるので、是非とも一般市民に、資料館についての色々な資料等を知ってもらう機会を増やし、子どもたちが亀岡に住んでよかったなどと思えるような、PRをしていただけたらと思う。

○委員

一歩一歩確実に整備が進んでいることをうれしく思う。ただ、このような会議において具体的な内容やイメージを掴んだ上で、議論を進めていくためには、写真や図面などもう少し丁寧で詳細な資料の提示が必要であると考え。本日、歴史文化財課のホームページを見たが、史跡丹波国分寺跡の保存活用事業で綺麗に整備した様子の写真などがホームページに掲載されていない。

全国津々浦々、遺跡や国分寺跡を巡るような熱心な考古学ファンや学生がたくさんいる。全国からホームページにアクセスしてくることを考えても、見る人が興味を持つようなホームページに整備・充実することは不可欠である。ぜひ、素晴らしい取り組みなので、歴史文化財課のホームページに掲載し、亀岡市の国指定史跡としてPRしていただけたらと強く思う。

なお、添付資料に史跡丹波国分寺跡記念物保存修理事業とあるが、「記念物」という文言は不要。「記念物」の分類体系の中に「史跡」が位置付けられている。

かめおか児童クラブ事業

○委員

かめおか児童クラブだが、子どもファースト宣言が発表された後、利用者が増えていると見受けられる。特に1家庭2人目以降の負担金無料化によってもっと利用が増えるのかと思っていたが、土・日・祝日の入会児童数は66人と少ない。アンケート調査をして市民のニーズを把握された後にスタートされているにもかかわらず実際はこれぐらいなのかという印象を受けた。

保育所も休日保育を実施しているが、プロとして登録している保育士に勤務をお願いしても、当日利用している子どもが1人ないし2人しかいない日が増えてきている。調整をする必要があると感じる。

○委員

私が、小学校に勤めていたとき、もう少し放課後児童会が時間延長されればよいとか、休みの日にも利用できればとか思っていたのが実現されてきたと感じる。人がなかなか足りない中で苦勞されているとは思いますが、仕事をしている親にとってはうれしいことだと思うし、心強いと感じるだろう。よい取り組みだと思う。

○委員

子どもたちを預かるので、大学生でもしっかりとした自覚意識を持って従事していただけたらと思う。世間では学校などの教員職員の自覚欠如から起こっている事故や事件が多々ある。教育委員会としても、大学生などの支援員や支援補助員をしっかり指導していただきたい。

○委員

土・日・祝に利用児童数が少ない現状があるが、このまま少ない状況が続けば休日開設をやめてしまう可能性はあるのか。

○事務局

人員配置の問題がある。例えば、開設する予定をしているが、急遽利用予定の児童が欠席するなどの状況が続いたら、勤務を予定していた支援員・支援補助員には困ったことになる。市民のニーズを把握し、改善したい。実施方法については検討していきたい。

○委員

先ほど他の委員の発言にあったとおり、特に小さいお子さんがいらっしゃるお母さんにとって児童クラブがあるということだけで非常に心強いだらうと思う。人員の確保などいろいろな問題があると思うが、ある程度需要がある限りは続けていただきたい。

④ 協議事項

〔1〕南丹地区社会教育委員連絡協議会研修会の視察先について

○委員

6月に京都府社会教育委員連絡協議会総会で「社会教育から見た地域文化財の保存と活用一人づくり・まちづくり・未来づくり」という演題で話をした。その関係で自分としては文化資料館を見ていただければとてもうれしい。

また、文化資料館では11月3日から12月10日にかけて、特別展が開催される。その直前に研修会を開催すると、特別展の準備で忙しい最中になるので11月3日以降がよいと思う。また、開催するのであれば、特別展も見ていただきたいので、11月3日から12月10日までの間で調整していただければと考える。あわせて、デジタル文化資料館の中核であるメタバースの実演による映像鑑賞もできれば、これまでの会議での報告説明を実感理解ができると思う。

○委員

デジタル文化資料館は始まったばかりの事業ではあるが、紹介できたらよいと思う。

他にも「開かれたアトリエ」もよいのではないだろうか。霧の芸術祭などいろいろな取り組みをされているので紹介できればと考えているが、平日はカフェとして一般利用客が来られるので平日の昼間は難しいかもしれない。

○委員

文化資料館もよいが「開かれたアトリエ」もよいと思う。スペースさえ確保できれば、一般利用者が来ても開催が可能であるし、会議室ではない開放的な空間なので意見交換がしやすいと思う。時間が17時以降なら自由に使えるのではないか。

○委員

昼間の開催にはなると思うが、南丹地区社会教育委員連絡協議会の方とも相談して決定していければと思う。

[2]その他

全国水平社博物館の見学について

○事務局

前回の社会教育委員会議で意見があった水平社博物館の視察研修会ができればと考えている。

内容は、ボランティアスタッフの案内による館内見学、フィールドワークを計画している。

○委員

フィールドワークの内容が気になるころではあるが、研修の行程は事務局に一任する。

令和4年3月に水平社博物館に関する新聞記事が出ていた。水平社博物館で漫画「ワンピース」や「鬼滅の刃」とかの展示があるようだ。今の若い人たちにも人権について真剣に考えてもらえるよう、その入口として、普段見ているアニメーションや流行曲の中に人権を意識した表現やフレーズがあるというを紹介している。どのように上手く展示に取り入れているかを見学したい。皆さんと一緒に人権に対する思いを共有することが大切ではないかと考えている。

各社会教育委員の活動報告

○委員

8月4日から開かれたアトリエで「てとてふれあう芸術展」を開催する。霧の芸術祭と社会教育課とが一緒になって開催する芸術展である。内容はかめのご学級、ふれあい学級、そしてかめの会に通う皆さんが、日々の活動の中で作られた作品を展示するというものである。作っている過程や日々の暮らし、コミュニケーションに着目して、そこに集う方々の時間を共有できる展示になっている。

前は「アートでつながるあなたとわたし」という企画にしていたが、こちらがアートとして何かを提供した結果繋がりが生まれるのではなく、皆さんが手と手が触れあって繋がっていくからこそ、そこに芸術が生まれるのではないかということを感じて、タイトルを変えている。

以前は、講師やスタッフや障がいのない方が障がいのある方と繋がって何かを作るということに注目しがちだったが、各学級の生徒がお互いにと手を取りながら作品作りをしているところに焦点を当てて横の繋がりを大事にした展示になっている。

○委員

配布資料にあるように、亀岡生涯学習市民大学の各講座の受講生を募集しているのでぜひ申し込みをしてほしい。次回7月20日の徳川家康関係の第2講座では、事前申し込みで現在400人を超えている。

また、8月5日に「保津川を語る～再開に際して～」というフォーラムを開催する。事故で

長く運休していた保津川下りの再開にあわせて応援しようというイベントで、私自身もコーディネーターとして参加する予定である。ご参加いただければと思う。

○委員

亀岡市内の保育所・子ども園では子育て支援事業を行っている。配布資料にあるのは保津保育所の写真である。未就園親子を対象に、毎年約 10 回程度の支援事業を実施している。その中には社会教育課が実施している子育て親育ち講座もある。

今までは、コロナのために、亀岡市民に限定するなど人数制限を行っていたが今年度は特に大きな制限を設けず実施している。

子育てはワンオペになりがちではあるが、保護者が孤立しないようにと、子どもたちがすくすく健やかに育つようにという思いを持って、事業を行っている。最近では保育所の変革という要望がすごく増えてきており、それが保育所選びに繋がるというケースがある。

子どもを育てることが、家庭のみならず地域だったり、亀岡市全体での子育てができるところに、ニーズが高まっていると感じている。イベントだけに終わらず、子育て相談に繋がったり、親同士の繋がりをつくる場として大切な事業として進めていきたいと思う。

会議閉会に際して

○委員

最後に発言させていただく。

亀岡市社会教育委員会議の議事録は、単なる記録化のためだけではなく、広く市民へ会議内容を伝えるために、毎回、ホームページに掲載されている。情報公開の重要な役割を担っている。

今後、開催される亀岡市社会教育委員会議の議事録は言うまでもなく、今回の会議でも言及したが、歴史文化財課の新資料館(仮称)基本構想策定事業検討委員会や亀岡市文化財保護委員会の議事録についても、開催後に必ずホームページに掲載されることを強く要望する。

亀岡市教育委員会として、市民への情報公開の徹底を図っていただきたい。